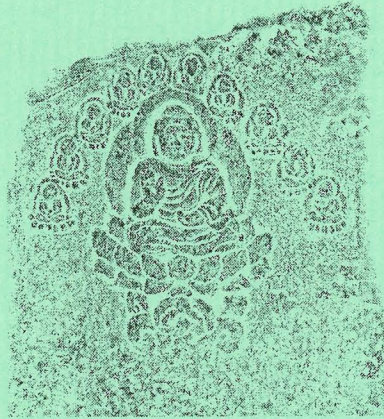


昭和63年度

平城宮跡発掘調査部
発掘調査概報



1989

奈良国立文化財研究所

凡 例

1. 本書は、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が、昭和63年度に実施した平城宮跡および平城京内遺跡の発掘調査の概要報告である。各調査報告の執筆は、各現場の発掘担当者が行なった。
2. 発掘遺構図に付した座標値は、平城宮内遺構の場合が、平城方位に基づく座標値であり、平城京内遺構の場合、国土方眼第VI座標系による座標値である。平城方位とは、内裏内郭をめぐる築地回廊北面の北雨落ち溝の方位に基づくもので、国土方眼に対して北で $0^{\circ} 7' 47''$ 西偏する。宮内に設けられた基準点のうちNo.7（第二次大極殿基壇上）を（0, 0）とし、東西南北をEWSNとして正数（単位m）で示す。なおNo.7は国土座標では $X = -145,412.55$ 、 $Y = -18,322.19$ である。高さはすべて海拔高で示す。
3. 遺構図には、遺構ごとに一連の番号を付け、番号の前に、SA（築地・塀）、SB（建物）、SC（廊）、SD（溝・濠）、SE（井戸）、SF（道路）、SK（土坑）、SS（足場）、SX（その他）などの分類記号を付した。なお遺構番号のなかには仮番号で示したものを含んでいる。
4. 平城宮出土軒瓦・土器の編年は次のように表わす（カッコ内は西暦による略年代）。平城京内についてもこれを準用した。

軒瓦；平城宮出土軒瓦編年第I期（708～721）、第II期（721～745）
第III期（745～757）、第IV期（757～770）、第V期（770～784）
土器；平城宮土器I（710）、II（725）、III（750）、IV（765）、V（780）、
VI（800）、VII（825）
5. 本文未収録の調査については、巻末「その他の発掘調査一覧」を参照されたい。

目 次

I 平城宮の調査

1 第二次朝堂院朝庭域の調査	第188次	3
2 第一次大極殿地域西南部の調査	第192次	11
3 馬寮東方地区の調査	第194次	18
4 東院地区の調査	第196次	29
5 宮北面中門推定地の調査	第191-4次	33
6 宮東面大垣の調査	第191-5・12次	35
7 宮北方遺跡の調査	第191-2次	42

II 平城京・京内寺院の調査

1 左京三条二坊一・二・七・八坪の調査		
第186・186補・190・193・195・197・200次		46
2 右京三条一坊十六坪の調査	第191-1次	88
3 左京四条二坊十五坪の調査	第191-3次	89
4 右京一条二坊三坪の調査	第191-6次	92
5 左京八条一坊六坪の調査	第191-11次	93
6 頭塔の調査	第199次	96
7 西大寺境内の調査		104
8 薬師寺西面回廊の調査		113

その他の発掘調査一覧		122
------------	--	-----

写 真	1 第199次 頭塔の調査 (遺構全景)	
	2 第199次 頭塔の調査 (D号石仏)	
	3 薬師寺西面回廊の調査 (遺構全景)	
	4 薬師寺西面回廊の調査 (単廊礎石下地業)	

(表紙カットは第199次調査、頭塔北面5段D号石仏拓本)

昭和63
年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報

1989.6

奈良国立文化財研究所